

● 第5回多摩市自治推進委員会

平成21年10月14日18:30~21:00

多摩市役所 特別会議室

出席者： 江尻京子委員長 磯崎初仁副委員長 大木貞嗣委員 金今善委員 益子千秋委員  
横倉敏郎委員

事務局： 企画政策部長 企画課長 企画調整担当主査 企画課主任

審議

・自治推進委員会の取り組みについて

今後の予定

・第6回11月11日(水)

委員 前は、貝取コミュニティセンター（こぶし館）に伺い、運営協議会と意見交換した。本日は、こぶし館の運営協議会から前回の補足資料をもらっている。これで、こぶし館の運営について理解できると思う。運営協議会との意見交換では、コミュニティセンター運営協議会が問題解決型の役割を果たせるかなどの議論が足りなかった。そのことについて、補足資料に答えが書いてある。

前々回の委員会までにコミュニティ自治及びその発展について話し合いを進めていく上で、いくつかの柱が出てきた。一つは、自治会を柱にして考えること。二つ目は、コミュニティセンター及び運営協議会が中心に自治を推進していくこと。三つ目は、新しい組織をつくって、自治を推進すること。最後は、核になるような組織をつくらず、連携すべきときに各団体が連携するようなものにする。補足資料では、最後の連携について、言及している。本日、コミュニティセンターに行った感想や課題について話し合いをして、次に展開していきたいが、その前に、事務局から資料の提出があったので説明をお願いする。

事務局 前々回の委員会の議論の中で出た、自治会に対する調査については、多摩大学が実施していることを確認した。多摩市の自治連合会と協働で調査している。現在、調査結果を集計中である。今年の12月6日には、調査結果について、自治連合会において報告会が行われ、その後に公表されると聞いている。調査で使用した調査票を見るとかなり細かく調査していることがわかる。それもあって集計と分析には、かなり時間がかかることが推察される。

委員 同じ調査をやってもしょうがないので、委員会としては、結果が出たら動きたい。

委員 過去に同様の調査はやっていないのか。

事務局 これまではやっていない。市としてもない。

委員 非常に詳細な調査票だと思う。

委員 今回、初めての調査ということだが、きっかけは何か。

事務局 多摩大学の企画で、市に対して協力依頼があり、市が自治連合会を紹介して協働調査ということになった。

委員 他に協働調査を実施することはあるのか。

事務局 多摩大学に限らず、いろんな大学と積極的に連携している。

委員 他の大学とはどんな調査をしたのか。

事務局 例えば、恵泉女子大学とは、ポイ捨ての実態調査などを実施した。また、首都大学東京とは、高齢者の実態調査を実施した。これは3年に1回定例でやっている。高齢者以外でも諏訪・永山地区の住まいの暮らし向きの実態調査などもやっている。

委員 調査票についてはこれで良いか。12月6日の報告会の後、データはどんな形で公表されるのか。もらうことはできるのか。

事務局 確認する。

委員 例えば、調査に携わった方に委員会に来てもらい、分析の結果を話していただくことはできるか。

事務局 可能だと思う。

委員 自治会については、調査結果が出た後に話しを進めていく。それでは、前回の運営協議会との意見交換の感想などを出し合って、話しを進めていきたい。

委員 貝取コミュニティセンターについては、自分の住んでいる地域なのでわかっているつもりだったが、わかっていなかった。運営協議会がボランティアだということは話には聞いていたが、問題解決型の役割を担うというスタンスに立っていないことをすごく実感した。それと同時にひとつの団体に問題解決型の役割を担ってもらうのは難しいと感じた。しかし、意識が変われば、運営協議会是一个の集団としては、可能性があるのかなと思った。

委員 運営協議会は、施設の管理と交流が主で、問題解決は難しい。しかし、地域の課題は認識していると思う。

委員 こぶし館も他のコミュニティセンターもほぼ同じスタンスだと思う。ただ、こぶし館からいただいた補足資料は、端的に現状を物語るものと思うが、それを行政も市民も明文化された状態では把握していないので、多くの人たちに知っていただく必要があると思う。行政からはコミュニティセンターをもって問題解決型にしていこうという期待感を感じるが、市民はいろんな立場で様々な意見を持っていると思われる。これからコミュニティセンターを作る場で議論することも大切だと思う。ひとつひとつ議論して、その先どうするのか、もう少し市民に知ってもらう必要があると思った。

委員 現在、唐木田コミュニティセンターの運営委員を集めているところだが、委員になる方は、施設を運営する意識でなられるのだと思う。貝取こぶし館の皆さんはボランティアでよくされていると思った。それ以上はできるかどうか。また、自治会なら自治会でどういうことをやるべきかという意識は薄いと思う。行政のほうで、その辺りの位置づけをはっきりさせた方がいいと思う。

委員 市がコミュニティセンターを設置する際の設置条例には、市の考え方、目的はどのようなことを定めているか。確かにコミュニティセンターに対して、行政がどう思うか市民がどう思うかを明確にする必要があると思う。感想としては、こぶし館は、施設的に充実していて、非常に多くの方が係っていると思った。前回に聞いた限りでは運営協議会の各部会がそれぞれ責任を持ってやっている様子がよくわかった。同時にそれぞれの方が長くやっているが、新しい人との新陳代謝が難しいと感じた。地域の問題を解決したり、住民同士をつなげることについては、運営協議会の皆さんに丁寧に答えたいいただき、論点がクリアになったと思う。複数の組織が層になって地域で助け合っていくということについては、何らかのコーディネートの機能の問題は残るのかなと思った。それぞれの層に自治組織が

うまく機能するのだろうかというのは投げかけなければと思った。課題を抱えて、イエス、ノーを決めなければならないときに役所に頼らずできるかどうか。

事務局 設置条例では、市民の主体的な活動によるコミュニティ形成の拠点施設として、コミュニティセンターを設置するとし、その管理運営については地域の住民により組織された公共的団体が行うとしている。これを根拠に運営協議会を置いている。コミュニティの活動は、コミュニティセンターを使用して地域の特性に応じた活動をするということである。

委員 こぶし館の運営協議会と意見交換する前は、コミュニティセンターの運営協議会が問題解決型として機能し得るのかという問題意識を持っていた。意見交換した後は、地域において課題が出たときにコーディネートができるのか考えさせられた。また、運営協議会からボランティアという発言が多かったのが印象的だった。私たちはボランティアだから自分たちの好きなことをやるということで、地域の問題を解決するために動くのは話しが違うという印象があった。現状から一つレベルアップするためには何がひっかかるのか議論できればと思う。

委員 ボランティアでは意思があってもなかなかできないということだと思う。コミュニティがやる気のある人だけで形成されるのが本当に良いのか考える必要がある。自治会などの個々のコミュニティ組織では対応できないこと、そういう各組織の隙間をどう対応するか、ネットワークが大事だと思う。

委員 ボランティアであるとはどういうニュアンスなのだろうか。それぞれに生活があるので無理を言うなということなのだろうか。または、自分たちで自発的にやっているの、自分たちの好きな様にやれなければ意味がないということなのだろうか。

委員 いろんなボランティアがあるのではっきりどうとは言えないが、そこの運営協議会が何をやるかということをはっきりさせないと、それぞれの思いで参加して、やりたいことがやれなかったということになると思う。最初参加されたときはどういう思いで参加したのだろうか。

委員 施設を管理運営していくということが大変で、そこに皆さんの思いが出てきている。ああいう大きなものをつくる時は、建物をいかに利用しやすくするかという思いが大きくて、地域のためにいかに役立てるかという意識はあまりないのではないかなと思う。あくまでも施設がメインでそこに来た人同士が仲良くなるとコミュニティが形成されるということだろうか。

委員 自分たちが自発的にやったことが、最初は反応がよくても経年で反応がなくなったときに、その原因を考えていくと地域との接点を持つことになるのかなと思う。こぶし館が開設されてから15年なので、ここで、地域に対する意識が出来てきたのかなと思う。上からの誘導ではダメで、自発性がなければいけないと思う。

委員 唐木田コミュニティセンターは、市民からの要望でできるのか。それとも市からの要望か。

委員 両方だと思う。

事務局 唐木田コミュニティセンターは設計まで終わったことがあったが、その後、財政がおもわしくなかったの、一時凍結し、また始めたという経緯がある。

委員 関心がある人にとっては、コミュニティセンターは是非とも必要で、いろんな施設が必要だということ。それを行政が限られた予算で実現するのが実情だと思う。

- 委員 運営協議会で子どもと接点を持つという話は出てくるか。
- 委員 話は出るが、子どもとの接点で行う活動は少ない。ボランティアでやっているから、別の人にやって欲しいということになると思う。スポーツだったら子どもや高齢者に重きを置いてはどうかという意見が出てそれとは別の意見を持つ人も多くいる。そうした場合の調整が難しい。また、自分の趣味ではないのにやらなければならない総務、広報、会計などは嫌がられる。そこも運営協議会内で調整する。
- 委員 ボランティアだからといって少数の人が居座ってしまい、組織が一部の人だけになるのもどうかと思う。
- 委員 うまく世代交代していくことが難しいようだ。長く居ることで経験を積めて良いことはあるが、意識しないと世代交代がうまくいかないと思う。どういう集団でもボランティアとしてやっているところは課題だと思う。
- 委員 一つの組織に特定の人だけが集まりすぎると他のコミュニティのバランスが取れないと思う。
- 委員 貝取こぶし館でも長く運営に携わっている人が多いと感じられた。
- 委員 コミュニティセンターの中で、あの人に聞けば解決しそう、教えてくれそうというような人はいるか。まずこの人に相談しようというような。
- 事務局 それぞれの館に何人かいる。民生委員をされたりしていろいろな知識をもっている人や知恵袋のような人がいる。
- 委員 それは運営委員を長くやっている人か。
- 委員 大体は運営協議会の歴代の会長。
- 委員 会長の任期はどれくらいか。
- 委員 それぞれの館で違う。
- 委員 コミュニティセンターの会則は、市で雛型をつくっているのか。
- 委員 会則は総会でつくる。
- 委員 委員が変わらないことによる硬直化が問題になる一方で、良い面もある。
- 委員 会長や役員には見返りが何もない。会長は何かあれば自分が謝ればいいんだという意識でやっている人もいる。聞けば何でも教えてくれる長老はいても周りを動かすということまではできない。
- 委員 コミュニティセンターに期待することはどんなことだろうか。逆に言うとどうなれば期待できるだろうか。もしコミュニティセンターを自治の推進の中心に据えていこうということであれば、どこがネックなのか。
- 委員 コミュニティセンターの年間計画は主体的に自分たちがやろうとしていることを計画するが、行政があまり強制しない形でこれこれを計画に入れてくださいということならどうだろうか。
- 委員 行政がもう少し関わったほうが良いということか。運営協議会に対する指定管理料以外に補助金がつくことはあるのか。
- 事務局 補助金はない。自主事業をやってくださいというお金が枠で300万あったとするとその事業で参加費をとったりして収益を拡大している。
- 委員 子どもが少ないのでこういう事業をやって活性化させたいというような企画に対して補助金はでないのか。

事務局 補助金制度をつくらないといけないので要求されて翌年すぐに制度をつくるということとはできない。

委員 事業に対して新たな手当てをするという事はないのか。

事務局 ない。指定管理料の中でお願いしている。

委員 市に対して事前に提出する計画などに基づいて、指定管理料に上乗せするという事はできないか。

事務局 他の館ではできない優れた事業だからということで、上乗せするという事はない。

事務局 前回の資料で、指定管理者評価シートがあったが、これには行政の方も現場に行って運営協議会と議論して、評価をまとめたものがある。その中では行政にこういう要望をしたが満たされなかったということはあまりない。運営協議会は、コミュニティセンターの管理運営をするが、同時にまちづくりに寄与していること、また、問題解決に寄与しているという面もあると思う。

委員 所管課が評価しているのであれば悪くはかけないと思う。

事務局 最初は館によって差はあったが、今では差がなくなったという経緯がある。

委員 今後の多摩市にとってコミュニティセンターが地域にとっての核になれるのかどうか。それができないのなら4つの柱の他の柱について話をしていく。

委員 第3次総合計画でゾーニングを見直したきっかけは何だ。

事務局 公共施設をどう配置していくかというのがゾーニングの最初にあった。しかし、いつまでもハード中心のゾーニングで良いのかということになり、ソフトの視点も入れたのが第3次総合計画。各ゾーンの拠点にコミュニティセンターがなって欲しいという期待を込めた。

委員 行政の公の仕事と私に関する範囲との区分が曖昧な灰色の部分、そこを地域にまかせることで、住民により的確なサービスをすることが出来るという部分があると思う。そういう青写真が出来ないのかなと思う。資源の自主回収はコミュニティセンターでやるのがいいのかなと思う。聖ヶ丘コミュニティセンター（ひじり館）ではデイケアサービスを月1回やっているが、他館でもやらないのかなと思う。具体的に実にコミュニティセンターにとりこめる活動がいくつかあるので、難しい話をするより、どこかをモデルにして補助金をつけ、他の館の人にも見てもらうという展開があっても良いのかなと思う。

委員 行政とコミセンで役割分担をするという課題があるということ提言できると思う。他の地域では行政がやっていることをこの地区ではコミセンがやっているという場合、差をつけてよいと思う。

事務局 自治会に対しては補助金のメニューがあるので、こういうことをやれば補助金がでるといのはある。コミュニティセンターにはそういうものはない。補助金の申請には、事業計画がなければならない。また、事後には実績報告書が必要である。その後、補助金を確定している。

委員 コミュニティセンターで、赤字を出さずには運営できない状況という館はあるか。

事務局 そういうところはないが、以前と比べ、総額は下がっている。臨時職員の単価も相当据え置いている。指定管理料はもっと多いほうが、というのが現状だと思う。

委員 集団回収でお金が入ってくるというような情報をどんどん流して自主的に収入を確保してもらうことが良いと思う。

- 事務局 集団回収はどんな団体がやるかによるが、今は団体数を増やしたいという思いがある。
- 事務局 コミュニティセンターが地域の核になるにはいくつか問題がある。指定管理料の事業費の中には、一定の地域のエリアの自治活動を担ってもらいたいという思いも含まれている。一方で運営協議会には、管理運営のみを受けているという思いがある。行政と運営協議会で話し合いをする時期に来ていると思う。メリットを示して、理念としてよりも実態としてのアプローチをして行くやり方もあると思う。
- 委員 実態的なアプローチということを見ると、そこに住む人が自分たちの地域をどこまでと考えているのかを知る必要があると思うが、調査したことはあるのか。
- 事務局 そういう調査はしていない。自治会の数等の客観的な状況は把握しているが。
- 委員 コミュニティセンターとしては、館を運営することに活動がシフトしているが、じわじわと地域のことを考えていかなければならないというところにまで来ているのか。
- 事務局 地域の親睦や交流に力を入れても、恐らく根っこでは問題意識を持っているのではないか。
- 委員 集合住宅では大規模修繕をやっているが、今では、それだけでは持ちこたえられないところがあると思う。そういった話は実際にできてきているか。
- 委員 諏訪・永山で話があると思うが。
- 事務局 建て替えの話がある。
- 事務局 エレベーターをつけるにも住民の合意形成が必要である。市が、エレベーターの設置に援助するということをやったことがある。1機1000万円の時代に200万円をつけるというものだったが、合意形成がうまくいかなかった。買ったときは1階が高くて、上に行くほど安くなるが、エレベーターがつくことで逆になる。賃貸も同じようなことがある。
- 委員 そのようなことについて、コミュニティセンターで勉強会を主催しようとしたことがあったが、それは管理組合でやれば良いという話がでた。
- 委員 公と私の間でどのようなものがあるのかわからないが、行政の方でそういうメニューを示してもらえれば良いのでは。
- 事務局 地域にまんべんなく情報を提供すること、広報の全戸配布を運営協議会としてやることで機能が蓄積していけば実態的にコミュニティセンターに対する地域の求心力がでてくると思う。また、公共サービスの拠点とする考え方もあると思う。コミュニティセンターに行けばこんなことができるということを地域の人が実感すれば次のステップに行くと思う。
- 委員 そういう意識がコミュニティセンター側にはないのが現状だと思う。
- 委員 地域から頼られる存在になれば良いのだろうが、実際は運営協議会からはそれでは困るということが悩ましいところ。前回の意見交換でもそういう話が出た。今後、どう進めていけばよいか。
- 委員 コミュニティ自治を行う受け皿として、自治会、町内会に可能性があるのかどうかもこのあと実態調査をすると思う。
- 委員 その中に、できれば青少協地区委員会も加えて欲しい。単体では機能できないが、それなりの存在にはなると思う。
- 委員 コミセンの話はいったん置いておく。12月の時点で自治会の調査結果がでるが、その前に青少協地区委員会の調査をするか。

- 委員 12月の結果発表会のあとに多摩大学と自治連合会の人に来てもらいたい。
- 委員 青少協地区委員会の調査はどのような形でやるか。どんな活動、事業をしているか、課題は何かなど、何方かに話しをしてもらえるだろうか。
- 事務局 所管課に確認する。
- 委員 青少協地区委員会全体を組織しているものはあるのか。
- 委員 青少協地区委員会の会長会がある。
- 委員 その方々に来ていただくのが良いのでは。
- 委員 個別の地区委員会について聞く前に、全体の話しを聞くのが良いと思う。
- 委員 今回は、青少協地区委員会の会長と所管課の課長に来てもらいたい。どこの地区委員会にするかは任せるが、地域の中にある組織の一つであり、子どもを対象としている組織として話しを聞くということで、人選をお願いしたい。今回は事前に質問を用意したが、今回は現状を知ることを中心にするため、話を聞いたあと議論したい。
- 委員 今回はコミュニティセンターに行き、今回はその感想について意見交換をした。今回は青少協地区委員会について、次々回は自治会についてヒアリングするというので、その後にはどうするかは年明けになるだろうか。
- 委員 まだまだコミュニティの実態を分かっていない。自治を推進していくためにはどこを当てにすれば良いのか、どこどこを繋げばよいかを知るためにさらに調査は必要だと思う。自治会、コミュニティセンター、青少協地区委員会以外にも知らなくてはいけないことが出てくると思う。
- 委員 コミュニティの実態把握をしたあとで、行政が、公園や河川の管理、高齢者の介護、子どもの関係のいくつかの分野について、地域との連携、役割分担について、どう考えているか調査することで、互いの意思のずれや構造が見えてくると思う。来年度は、市長や議会に話を聞くこともあると思う。
- 委員 新しい組織についても議論したい。今回は11月11日に開催する。次々回の開催予定は、12月16日とする。このときには多摩大学で自治会の調査をした人と自治連合会の人を呼びたいので事務局は調整をお願いしたい。